

独立

DOKURITSU note



No. **13**
2024

- 独立レジェンド／鳥海青児
- 独立キーパーソン／伊藤弘之が語る
- アトリエ探偵団／向井隆豊
- 特集／第90回記念独立展・地方巡回展

第91回独立展地方巡回展(予定)

- 京都展
京都市京セラ美術館
2024年12月3日(火)～8日(日)
- 中部展
愛知県美術館
2024年12月18日(水)～22日(日)
- 福岡展
福岡市美術館ギャラリー
2025年2月18日(火)～23日(日)



詳しくは独立展ホームページまで！
▶<http://www.dokuritsuten.com>

独立ノート第13号

発行日／2024年10月1日 発行者／独立美術協会

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-13-8-507
Tel.03-3490-5881 Fax.03-6420-0026
E-mail.dokuritsu@ceres.ocn.ne.jp
URL.<http://www.dokuritsuten.com>

デザイン・印刷／エーワンネットワーク

予告

第92回独立展

2025年10月15日(水)
～27日(月)
国立新美術館
搬入日／10月2日・3日

独立春季新人選抜展

2025年3月25日(火)
～31日(月)
東京都美術館

―編集後記―

独立ノート第13号をお届け致します。昨年の第12号は、独立展第90回記念展特集として、創立当時から今日までを写真にて特集致しました。今号も引続き、第90回展を祝い記念する企画として、北海道から九州の各地方展で開催されました記念行事や企画展をご紹介致しました。独立展の熱い活動が少しでも伝わると幸いです。執筆を頂いた皆様、取材にご協力頂きました皆様へ感謝申し上げます。





独立美術協会小史

【誕生—初期】(1930—1959) 1930年11月1日、清水登之(43歳)、鈴木保徳(39歳)、川口軌外(38歳)、小島善太郎(38歳)、児島善三郎(37歳)、中山巍(37歳)、鈴木垂夫(36歳)、里見勝蔵(35歳)、高島達四郎(35歳)、林重義(34歳)、伊藤廉(32歳)、林武(32歳)、福沢一郎(32歳)、三岸好太郎(28歳)という14名の気鋭の画家たちが独立美術協会を設立し、翌年1月には東京府美術館で「第1回独立展」を開催した。初期段階で野口弥太郎、須田國太郎、小林和作、海老原喜之助、鳥海青児らが会員として迎えらる。第1回展は3,058点、第2回展4,853点、第3回展では5,000点を超える搬入点数があったと記録されており、他の団体を超える「熱狂的な支持」を得ていたことが分かる。この期に独立は近代史に輝く画家集団として確固たる地位を築き、「独立展」は俳句の「季語」になった。

【中期】(1960—1984) 現代の洋画壇でも中心的な活躍を続けている会員が、この頃に新会員となって注目を集め始めた。画壇の芥川賞といわれた安井賞展には、独立所属の画家が多く入選・受賞した。その他昭和会展、安田火災美術財団奨励賞展など多くのコンクールや芸術賞で受賞してきた。また文化庁芸術家在外研修員として選出された画家も多く、活躍が続く。

【現在】(1985—) 独立展以外の活動では、この期も様々なコンクールで受賞したり、文化庁芸術家在外研修員に選ばれる独立所属画家の輩出が続く。また、毎年6月を中心に銀座界隈の画廊で独立展出品者の展覧会が頻繁に開催され、美術界の話題になっている。一方独立展内部の作品には、抽象作品だけでなく具象作品にも半立体的な作品が現れたり、写実的な傾向の作品やコンピュータを利用した作品も増えて表現がより多様化していった。独立展は、こうした新しく生まれようとする優れた才能には時を選ばず評価してきた。また「審査することは、同時に審査されること」という自覚を持って運営し、現在にいたる。批評家・学芸員・会員によるギャラリートークも好評を博している。

DOKURITSU EXHIBITION
**独立春季
新人選抜
2024 展**
3月25日(月)～31日(日)
大場無料



独立ノート第13号

発刊にあたり

独立展に集う画友の皆様、コロナ禍も下火となり元気にご活躍のことと思います。

本展は創立以来、本年で 91 年目を向かえました。会員・準会員・会友・そして出品の皆様の炎のごとき熱い情熱にさえられ、画中に多くの賛を培い、画壇の中心的存在として今日に至っています。

描くことは楽しくもあり、又、苦しいこともあります。その両者共、我々に生きることのすばらしさを教えてくれています。この独立ノートが道しるべとなり、独立に集う我々が強い絆で結ばれることを願っています。

事務所委員 絹谷幸二

目次

❖ 独立美術協会小史	表紙裏
❖ 独立ノート第13号発刊にあたり	1
❖ 独立レジェンド／鳥海青児	2
❖ 独立キーパーソン／伊藤弘之が語る	4
❖ アトリエ探偵団／向井隆豊	6
❖ 第90回記念独立展・地方巡回展	8
❖ 独立ホットニュース	10
❖ つぶやき生の声！	12
❖ 独立人—ひとりたつひと—／小久保裕	13
❖ 第91回独立展地方巡回展	裏表紙
第92回独立展告知	

制作:独立ノート編集室

阿部栄一 加藤啓治 木村小百合 児玉沙矢華 権藤信隆
阪本聡 高橋雅史 千葉光 宮地明人

協力:画像提供／金井訓志 松原潤

表紙:鳥海青児「昼寝するメキシコ人」 62.0×73.0cm 1964年
神奈川県立近代美術館収蔵 第32回独立展出品

日本の油絵とは何か！

絵具の物質性によって
対象のリアリティを追求

鳥海青児

ちょうかい せいじ
Seiji CHOKAI



『中野美術館所蔵 須田国太郎・鳥海青児展』
中野美術館編集・発行、1989年、図録 P19より

「かさぶたみたいな絵」の出発点

鳥海青児(20歳の時に青児と名のり、本名は正夫)は1902年(明治35)、神奈川県平塚市に生まれる。絵は子供の頃から好きであった。15歳の頃、油絵を描きはじめた。「空はブルشانに土はライトレッドのかさぶたみたいな絵」を描いていたという。藤沢中学時代には、原精一、森田勝と出会う。画友となる彼らと、土地の縁で岸田劉生や萬鉄五郎にも巡り合い、鳥海の画業の出発点が藤沢中学時代にあった。鳥海は家族の反対で美術学校には行かず、関西大学経済学部在籍しながら、1924年第2回春陽展に初出品初入選。「平塚風景」は公募団体展デビュー作である。この頃より、レリーフのように盛られたマチエールが見られる。三岸好太郎、木村荘八らが結成した麓人社で絵画の同志との大切な出会いがあった。平塚にはよく戻ってきて、藤沢中学グループの画友と親密に付き合い、岸田と萬とも交流があった。劉生より「冬菜」の画号を贈られるなど、期待されていた。1926年、大学

を卒業したが、経済よりも絵を描くことを熱心に勉強した。

「はるかなる亜流」になる

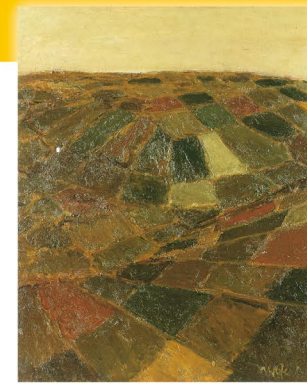
1930年から1933年、春陽会無監査となった鳥海は、パリ留学が実現して渡欧する。ギターをリュックにくくりつけて背負ったそうだ。プッサンを学ぼうとパリに向かったが、ヨーロッパの中心部よりもアルジェリア、モロッコに旅し、スペインで、ゴヤのサン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ礼拝堂のフレスコ画とキンタ・デル・ソルド(聾の家)の壁画(プラド美術館)を見て強い衝撃を受けた。その後レンブラントを見に行く。ゴヤとレンブラントの「はるかなる亜流」と自認するほどであった。3年間の滞欧中に描いた「闘牛」と「夜のノートル・ダム」から鳥海の画風が展開されていく。この「夜のノートル・ダム」は20年間描き続けられた。朝になっては夜になり、描いては削ることが重ねられてきた。

独立美術協会と鳥海青児

1930年独立美術協会設立の頃、鳥海が渡欧する前に、三岸好太郎が鳥海を独立に誘う。まずは渡欧してから、と一度鳥海は断った。パリでは海老原喜之助、野口弥太郎と知り合う。渡欧後、三岸は再度、鳥海を誘い、鳥海のアルジェリアやモロッコ風景を見て感激した林武も、鳥海を独立へ引っ張ろうとした。しかし、藤沢中学からの仲間がおり、木村荘八への恩義で春陽会を去ることができなかった。それでも時々、独立展の批評なども書いて好意的であった。滞欧から帰国した鳥海は油絵で日本の風景を表現することに悩んでいた。1936年「水田」のように日本の「土」や古美術にも眼を向ける。独立展の、日本の油彩画を模索して独立した個人が集まり、主観的なリアリズムを追求する気風が鳥海に合っていたのかもしれない。1943年に春陽会を退会し、第13回独立展に出品して独立美術協会に推挙される。第14回独立展「北海道風景」出品を最後に、鳥海の絵は変化する。

戦後の画風転換と旅

1951年第19回独立展に「段々畠」「春の段々畠」を出品。秩序だった構成、対象を平面的に捉



「段々畠」80.2×65.2cm 1952年 油彩・キャンバス
平塚市美術館収蔵



「黄色い人」60.6×72.9cm 1956年 油彩・キャンバス
平塚市美術館収蔵

える視点、抑制された色彩が見えてくる。この頃から、絵の中に黄色が入り、黄色そのものが重要な対象になった。1955年度の芸術選奨文部大臣賞を受賞し、第24回独立展(創立25周年記念)「黄色い人」では、人が表現の対象として戻った。1957年には再びヨーロッパを巡り、スペインを取材した作品が際立つ。1959年には第10回毎日美術賞を受賞し、またエジプトやメキシコなど世界各地の旅へ。旅では多くの写生が残されている。旅と出会いを重ねて、単純化された形態に地層のような絵肌が合わさった独自の表現を確立する。1972年70歳で没した。鳥海は「日本の油絵」とは何かを悩みながら、絵具の物質性によって対象の主観的リアリティを追求してきた。彼の精神は、現代の独立展にも継承されているのではないかと。



「平塚風景」32.0×41.0cm 1924年 油彩・キャンバス
神奈川県立近代美術館収蔵



「夜のノートル・ダム」33.0×23.4cm
1932年 油彩・キャンバス
平塚市美術館収蔵



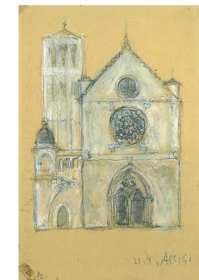
「水田」89.8×145.9cm 1936年 油彩・キャンバス
平塚市美術館収蔵



「ピカドール」91.0×72.3cm
1958年 油彩・キャンバス
平塚市美術館収蔵



「メキシコの西瓜」61.2×72.6cm
1961年 油彩・キャンバス
平塚市美術館収蔵



「アッシジ」25.1×18.5cm
1957年 鉛筆・パステル・紙
平塚市美術館収蔵

【参考文献】

- ・土方明司「鳥海青児の画業について」『平塚市美術館所蔵 鳥海青児作品総目録』平塚市美術館 2005年 P6-10
- ・「平塚市美術館所蔵 鳥海青児作品総目録」平塚市美術館 編集・発行 2005年
- ・「鳥海青児と三岸好太郎展」北海道立三岸好太郎美術館 平塚市美術館 編集・発行 2008年
- ・原田 光「鳥海青児絵を讀む」せりか書房 2015年

伊藤弘之が語る いとう ひろゆき

Hiroyuki ITO



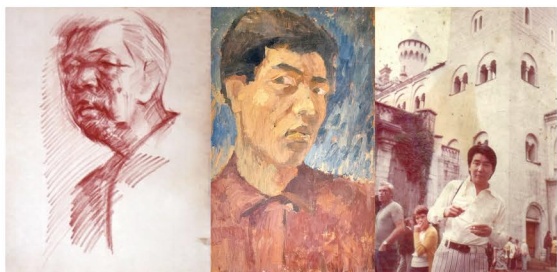
- 1937 横浜市に生まれる
- 1960 京都市立美術大学卒業、独立展へ出品始める
- 1979 独立展にて藤岡賞、野口賞二回、児島記念賞
安田火災美術財団奨励賞などを受賞
- 1985 安井賞展
日伯現代美術展MOA 美術館奨励賞受賞
- 1992 独立賞(93年)
- 2006 県文化団体半どんの会文化功労賞を受賞
- 2008 大阪芸術大学短期大学部退任
退任記念展(尼信会館) 色彩美術館にて個展
- 2011 伊藤弘之自選展(兵庫県立美術館ギャラリー)
- 2017 傘寿展(県美術館原田の森ギャラリー)
独立美術協会会員功労賞
- 2019 令和元年度西宮市民文化賞
- 2022 紺綬褒章
- 2024 米寿展 BBプラザ美術館

画家を志す

父の病氣のために進路をとった天王寺商業高校だったのですが、商人気質が合わず美術部に入りました。そこでコンクールで三年連続優勝を決め画業への夢を強く持つようになりました。幸い父の病氣も回復傾向になり、兄たちの援助もあったお陰で大学を目指したのですが一年目は力及ばず大阪市立美術研究所で浪人する事となりました。

恩師・須田國太郎との出会い

大阪市立美術研究所での入所挨拶の時に須田國太郎先生に「頑張りなさい」とお声掛け頂いたのが先生との初めての出会いでした。研究所では木炭デッサンに集中、鳥海青児や香月泰男の作品を知り、中でも独立展に出品された須田國太郎の「窪八幡」の作品を知り絵に対しての視野を広げられた様に思います。翌春の京都美大での入試面接で須田先生に再度の面接を受け「絵描さんは厳しいですよ。どうしますか?」との質問に「必ずパレットが乾かないように努力します!」と約束しました。実技指導では先生との対話を通じて画面の奥から発信するリアリティが絵の良否を決めること、発信する思いを画面に封じ込めること、色や形に頼らず画面との対話を持ち造形美を追求すること、中でもその精神性を強く強調することなど多くを学びました。



会員推薦…阪神淡路大震災

在学中に独立展に初入選したのですが、当時は人物を主題に描いていました。後に馬にモチーフは変化していったのですが、独立で上がっていくのはなかなか厳しい道のりで同世代や後輩たちが次々に会員推挙されていく中、33年目に独立賞を連続受賞し35年目に会員推薦を受けることができました。ところが、会員推薦を受けた年明けに阪神淡路大震災に被災し、住居半壊、作品についてはたまたま百貨店での開催開催中で難を逃れた作品がいくらかありました。不幸中の幸いだったのですが、百貨店や画商さんもダメージを受けていたため思うような活動が出来るようになるまでには相当な時間が掛かる事になりました。

人と自然との共生、調和をテーマとし制作を続けてきました。その一段階として釧路湿原を取材、北の大地で暮らすキタキツネ、フクロウ、仔馬、そして川霧との共存のテーマでの作品を一年経って完成。動物の中でも自分を託せる動物は馬でしたが、馬から木馬へ転化、私自身の人生や輪廻などの思いを重ね、世界各地の自然や文化を求めて中国の砂漠や、グランドキャニオン、日本の桜や鳴門の渦潮など大小さまざまな自然と回転木馬の刹那と掛け合わせながらさまざまな思いをこめて今も描き続けています。



傘寿展でのスナップ 章子夫人と 2017年

独立展へ出品を続ける人へ一言

独立展では数々の教えや人間的成長をも頂き永い歩みの中で試練と戦いながら私は今、米寿を迎えました。描くモチーフはどんな事があっても変える必要はありません。そのまま発信し続け、内容や空間構成など不十分なところを早く発見し、より良い美しさを求めてください。

詩人 サミュエル・ウルマンはこう言っています。

「年を重ねるだけで人は老いない
理想を失う時に初めて老いがくる」

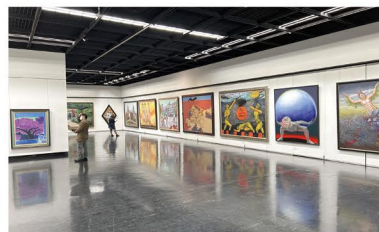
目標に向かって前進あるのみです。



震 1995年 J17 会員推薦直後に被災した年の作品

営(釧路) Living 1996年

左ページ下部上段左「病と闘う父のスケッチ」…その姿を表記するだけで無く父の苦悩をキャッチし表現したかった。
左ページ上段中「浪人中の自画像」1955年 上段右 初めての取材旅行ドイツにて 1980年
下段左「破れた仙人」1966年 100F 下段中「くらしの中で」1978年 150F 下部右「未生の桜」2022年 150F



第90回記念独立展北海道展を、6年ぶりの2024年の3月23日～31日に、札幌市にある北海道立近代美術館で開催した。北海道巡回展は5年ごとに行われる記念展ごとに開催している。物価高騰と北海道出品者が減少しているため、極限まで経費削減を実施。パーティー等の廃止や、印刷物を自分たちで作成するなど担当者に苦勞をかけたが、会場や作品数にこだわった結果、これまで以上に作品重視の展覧会とすることができたと思う。入場者も、9日間で2,215名と85回展の2,161名に比べ、少しではあるが増加し、物販の売れ行きも良かった。

北の地で頑張っている出品者の発表機会をこれからも確保し、北海道の人たちに、独立展作家の情熱を伝えて行きたい。

北海道巡回展事務所

波田 浩司

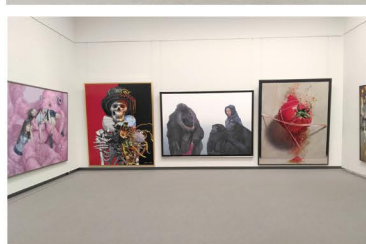
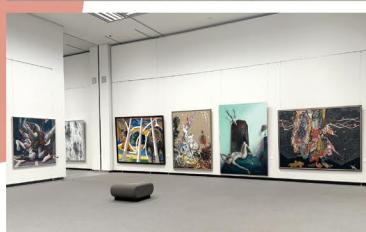
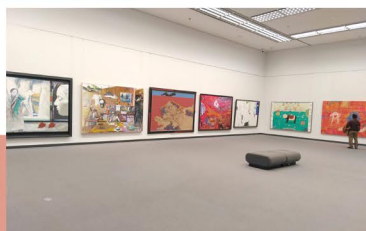
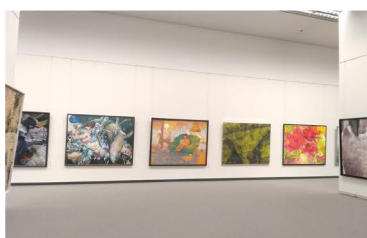
北海道展



第90回記念独立展中部展はコロナ禍の影響もあり、6年ぶりに愛知県美術館で開催した。4室を使用。会員(56点)、会員権、独立賞、新進作家発掘のために新設した90回記念協会賞と、中部地区(愛知、三重)出品者作品55点を展示。各室の展示が具象、抽象、ベテラン、独立展の将来を担う若者、地元作家など、展示テーマの明確性を図った。結果、観客の評判は概ね好評だった。規模は小さいが、活気ある巡回展だったと自負してる。一方で若者の公募展離れ、高齢化による出品者減少がある。全体の課題として乗り越えなければいけない。

中部巡回展事務局 倉岡 雅

中部展



京都巡回展は京都・滋賀の出品者の協力を得て、京都市京セラ美術館で開催しています。

美術館は2020年春にリニューアルオープンしました。巡回展は3年間の改装工事期間中は別会場で、また改装後もコロナ禍の影響で来場者が大幅に減少するなど、多大な影響を被りましたが、昨年あたりから徐々に入場者も回復してまいりました。今や古都の伝統と新しさが共存した美術館に多くの若者や観光客の来館が見られます。

美術館を訪れた人たちが独立展に出会い、ファンになってくれることを願っています。皆さんも京都巡回展にぜひお越しください。

京都巡回展事務所 廣田 政生

京都展



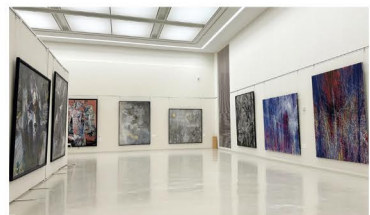
大阪市立美術館が改修(二年間)のため巡回展開催が危ぶまれていた中、第90回記念独立展大阪展が兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリーで開催できたことは、関係者の方々の尽力のおかげと感謝しております。使用上の制限から大幅な減収となりましたが、神戸で新しいファンもできた展覧会となりました。【原田の森ギャラリーが来年借用できず、第91回独立展大阪展は中止。】

発表の機会を考えている作家達がぜひ出品したい！美術館を訪れた観覧者が来年も必ず見に来たい！と、思っている大阪巡回展にしていきたいと考えています。

第92回独立展大阪展は、4年ぶりに大阪市立美術館で2025年11月開催予定です。多くの皆さんの出品と、ご来場をお待ちしています。

大阪巡回展事務所 岩本 かずえ

大阪展

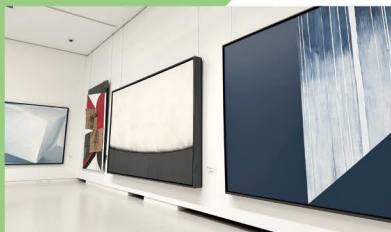


第90回記念独立展福岡展は、水辺に早咲きのツツジと新緑が萌える、大濠公園内の福岡市美術館にて4月に開催されました。同館は前川國男氏による設計で、5年前にリニューアルされ、国内外から多くの来館者が訪れる市民に愛される美術館です。

今回の福岡巡回展では、会員が作品の解説をするギャラリートークを催しました。また、来年には作品の研究展示として「独立福岡 明日への視展」の開催を予定しています。様々な催しを試みることで、独立をより知っていただく機会を得て、独立ファンが増える事を願っています。皆さんも是非、福岡巡回展へお越しください。

福岡巡回展 佐原 美樹

福岡展



独立ホットニュース

独立美術協会公式 Facebook

「独立展 newsroom」

2013年に10名の独立展会員で『独立展有志によるnewsroom』が開設され、この度、独立美術協会公式のFacebookページ『独立展newsroom』として認可を得て、新たなステップを踏み出しました。独立展や出品者の皆様の情報、国内外で注目を集める展覧会ニュースなどを中心に、アートを愛する全国の方々の楽しい投稿も紹介致します。皆様からの『フォロー』と『いいね!』を心よりお待ちしております。

情報は、Messenger で！

- ・独立展出品者の『展覧会』文字情報。
 - ・物故会員や個性的な出品者のエピソード。
 - ・お近くの独立展関係の活動情報など。
- 展覧会の DM 掲載をご希望の方は、ご自分の個人ページに投稿した後、『Messenger』で独立展公式ページへご一報ください。



Follow Us!!



独立ホットニュース

卒寿記念 藝術無終 奥谷博展

2024年6月5日[水]ー10日[月]
日本橋三越本店本館6階美術特選画廊

奥谷博先生の卒寿をお祝いする記念展が、2024年6月、日本橋三越本店本館6階美術特選画廊で開催されました。ダイナミックな大作品から、緻密な描写でモチーフを捉えた小作品26点を展観。また、6月8日(土)13時より、同会場で奥谷博先生によるギャラリートークが行われました。



「冬過ぎれば春」130.0×162.0cm 2023年



「Brugge 景観」80.3×100.0cm 2024年



ギャラリートークの様子

【福岡展】2024年8月14日[水]ー19日[月] 福岡三越4階岩田屋三越美術画廊

輝く日本油画 -独立美術協会90周年記念展-

第90回記念独立展を祝う特別展が、日動画廊本店と日本橋三越本店6階を会場に開催されました。

2023年11月2日[木]ー14日[火]

日動画廊展



2024年2月7日[水]ー12日[月]

日本橋三越展



輝け原石！ 2024 独立春季新人選抜展

2024年3月25日[月]ー31日[日]
東京都美術館

2024年3月、第90回記念独立展入選者から会友及び推薦された一般出品者 238名の意欲作が会場を飾る「2024独立春季新人選抜展」が、桜咲く上野公園の東京都美術館で開催されました。厳正なる選考の結果、「選抜展優秀賞」には、飯田博己、近藤リナ、吉原多美枝の3名。また、「前田さなみ賞」には、楠瀬伸和、竹内れい、平嶋菅子の3名の方々が受賞されました。



つぶやきの声

今回は会友の方を中心に
各地から制作への熱い思いなどを
往復はがきで協力を頂きました

初入選の知らせに自転車に2人で
乗り、笑い喜びあった主人との日
々は遠くに行ってしまいました。
私の遅い独立ですが頑張ります。

末次晶子・佐賀

人生の目標は完璧な絵を描くこ
と。まだまだ未熟なので新しい技
法に挑戦し、思考錯誤の日々です。

平嶋みゆき・宮崎

想いが込められた絵が並び
独立展。圧倒されつつ、参加
出来た事が嬉しい(初心者
マーク)

黒田ちづ子・香川

砂糖や生クリームを混ぜケーキを毎日作
ってます。美味しいケーキは出来上がる
のに、絵を描くために絵の具を混ぜて
も、なかなか良い絵は描けません。
がんばれ！自分。

志津野愛・滋賀

社会人になっても制作を続けてい
る、制作の壁にぶつかることがで
きる。未恐ろしい。

田窪薫・広島

私は当然天才でもなく才能溢れてい
るわけでもないんだけどいつか自分の
持つ才能の1番上までは辿り着きたい

辻美穂・和歌山

最後まで私に描く
機会を与え最後ま
で応援してくれた
父に感謝です。

青山美穂・神奈川

大きな絵を描くにはそ
れだけの気持ちが必要
という竹内晟先生の言
葉を思い出しながら、毎
年取組んでいます。

廣川飛鳥・福岡

F130を月に一枚、ドローイ
ングは沢山描こう！と日々
取り組んでいます。描く事
がとにかく楽しいです！

富田佳那・埼玉

30年ぶりに独立展を見て、心
が晴れる感動をもらい、私もと
初めて描く130号。独立美術学
校で学んでいます。

鈴木しのぶ・大阪

自然の中で輝く光や空気や
温度、湿気までも美しい透
明水彩絵の具で表現出来た
らとても幸せです。

酒井佳津子・東京

ゼミのみんなと見て回りました。
絵の前で一緒に写真を撮り、
素敵な絵画体験になりました。

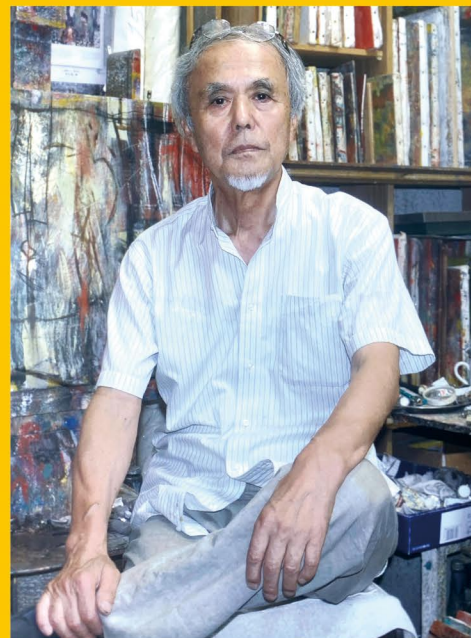
浦野聖菜・富山

1人ぼっちで活動していたらま
ず会える機会のない大スター
が集まる独立展、贅沢な学舎
なのです

佐々木ゆか・北海道

HITORITASUHIITO
独立人ーひとりたつひとー

小久保 裕
こくぼ ひろし
Hiroshi KOKUBO



「地天女たち」 P200 1995年 文化庁買上げ作品

- 1949 栃木県に生まれる
- 1974 東京藝術大学大学院美術研究科修了
- 1975～77 在仏(パリ・エコール・デ・ボザール在籍)
- 1992 第60回独立展 / 独立賞(翌年会員推挙)
- 1993 安井賞展(他に95、97年出品) 昭和会展(他に94、95年出品)
- " 栃木県文化奨励賞受章 セントラル美術館油絵大賞展 / 佳作賞受賞
- 1995 文化庁作品買上げとなる(現在京都国立近代美術館蔵)
- 2018 小久保裕展 / 小山市立車屋美術館、他個展多数
- 現在 独立美術協会会員

1 田舎暮らしの楽しみ

「庭仕事の愉しみ」というヘルマン・ヘッセの本がありますが、私も歳を重ねるにつれて「土いじり」に興味が湧いてきました。早朝の草むしりや樹木の手入れ、その折焚火をしたりFMラジオ番組「古楽の愉しみ」に耳を傾ければ至福の時がおとずれます。近頃は野菜づくりも始めました。このように人は土に触れることによって、何らかの生命の力を得るのかも知れません。これは縄文時代からのDNAのせいでしょうか。まるで時間が止まったかのような安らいだ心持ちになるのです。「天空の城ラピュタ」に「人は土を離れては生きられない…」という主人公の少女の言葉がありました。同感です。

考えてみれば、そんな想いが私の絵のテーマの根っこにあるのかも知れません。1990年代(独立賞受賞の頃)から「地天女」そして「ロマネスク紀行」や「森の顔」などのテーマで描き続けていますが、振り返ってみれば私の興味は全て自然と人間の関わり、そのあり様を掘り下げることにあったようです。

2 私のアトリエ館

昨年、空き家になった生家の離れを少々リフォームして「小久保裕アトリエ館」をオープンしました。古い建物で解体するにも負担が大きく、知人の建築家におだてられギャラリーやミニ・コンサートなど可能な空間を作りました。今まで滅多に人を入れない自閉的空間の中に安住していましたが、いよいよ老境を迎えようとする今、ここを第2アトリエとして、開放的でくつろいだものにしたいと思ったのです。どうぞお立ち寄りください。



〈小久保裕アトリエ館〉 栃木県小山市大川島569 TEL. 090-1507-8558
※不定期開館のため、来館の際はお問い合わせください



アトリエ館 館内